

国交省レーダ雨量計の解析、合成処理の高度化による洪水予報の高度化事業

実施主体：国土交通省
事業費：36百万円
対象事業：調査研究事業

事業目的

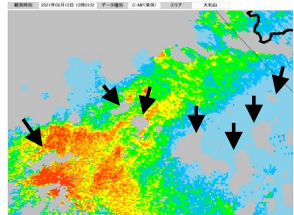
国土交通省の管理するレーダ雨量計について、データ処理のアルゴリズムを改良し、補正処理を行うことで、降雨情報の精度向上を図り、中小河川の氾濫や土砂災害などの予測精度を向上させることを目的とします。

事業概要

連携先：気象庁

■現状

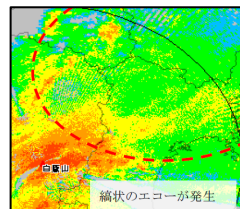
- 面的にデータを取得するレーダ雨量計は、観測機器が少ない中小河川の水位予測に有効なデータの一つです。
- 一方、様々な要因でノイズがのりやすく、現状のデータをそのまま利用するには課題があります。



降雨エコーの過少観測



晴天時の非降水エコー



縞状エコーの発生

■取組内容

- レーダ雨量計の観測精度向上を図ることで、中小河川の氾濫や土砂災害などの予測に用いる降雨情報の精度を向上できます。
- 避難情報の精度が向上し、迅速な避難行動につながります。

<事業スキーム>



実施イメージ

<本事業で実施する取組>

- 低品質データを観測データから排除するよう、解析処理プログラムを改良します。

①解析処理プログラムの改良

②合成処理プログラムの改良

③地上雨量計による補正処理プログラムの開発

R7年度実施予定

<本事業により得られる効果>

国土交通省レーダ雨量計の観測精度が向上することにより、様々な予測の精度が向上し、中小河川等の警戒の呼びかけなど迅速な防災対応・避難行動につながり、社会全体の防災力の向上に寄与することができます。

